

●新年のご挨拶（2019-1-1）

明けましておめでとうございます。本年も当協会の活動へのご理解、ご協力のほどよろしくお願い致します。

2018の冬は全国的に気温が低くなり西日本は1986年以降の32年で最も寒い冬となりました。日本海側では、記録的な豪雪となり、東京でも積雪23cmを記録するなど、関東地方でも大雪を経験しました。また、7月以降には西日本から東海地方を中心に「平成30年7月豪雨」に襲われました。この後も記録的な高温が続き、猛暑日や真夏日となる地点も多く、熊谷市は、国内統計開始以来最高の41.1度を記録しました。秋になっても紅葉が遅れ、12月に各地で夏日が記録されました。季節の節目もわからないような混乱ぶりです。ヨーロッパの猛暑、カリフォルニアの森林火災、アフリカ・オーストラリアの旱魃などの異常気象や自然災害が世界各地で報告されています。

これらの異常気象の原因は、地球大気圏の大気の流れが大きく変化したことによりますが、地球温暖化が影響していると気象庁も見ています。ミクロな気象は確率論的な現象で因果関係は不確実ですが、私たちの眼前で今まさに地球温暖化の影響が展開されているとみて間違いのないようです。

2018年9月には北海道胆振東部地震では北海道内全域停電が発生しました。これにより私たちの電力システムの脆弱性を再び認識させられました。この対策として地産地消の再生可能エネルギーを核とする分散・自立型エネルギーシステムも注目されました。

このような状況のもと、再生可能エネルギーはますます重要となっていますが、普及、理解はまだ不十分です。本年も当協会は、福島県、インドネシアでの再生可能エネルギー関連プロジェクトを着実に進め、また講演会、情報交換会、見学会や子供向け教育等を通じて普及・啓発に貢献するとともに、新たなプロジェクトにも挑戦したいと考えています。微力ながら、地球温暖化対策の一助となるよう活動を進めて参りますので、よろしくお願い致します。

事務局 富成研一

●福島県伊達市霊山プロジェクト地元特産品加工設備完成（2019-1-27）

東日本大震災以来、当協会が福島県伊達市霊山町の皆さまとの支援活動をしてまいりましたが、この度地元の方々の大変なご努力により、地元特産品の加工設備が完成し、関係機関の検査も無事合格し、運用が可能となりました。

設備能力はまだ小さく用途も限られていますが、名称をほまじのわ(和笑輪)とし、商品も、ナツハゼジャム、いちじく甘露煮、甘辛こうじピーマン、梅干し、大豆(青山在来)味噌、干し柿、もち、凍みもち、味噌漬けなど地元の風味を満載したものが、揃えられるようになりました。近々商品案内が出来ますので、是非ご支援の程をお願い致します。



地元特産品の加工設備外観

●情報交換会・事務局会議（2019-1-29）

2019年1月29日、情報交換会・事務局会議が千代田図書館第1研修室で行われました。情報交換会の話題提供者は季刊誌「環境施設」編集長山根和範氏で、「環境施設編集者からみた最近の廃棄物処理・エネルギー再利用の傾向」と題し、廃棄物処理施設とそのエネルギー利用の現状、施設に関連する国の施策の流れ、PFI手法、最近のトピックスなど多岐に渡るものでした。

その後、霊山プロジェクト現地代表大沼氏とのSKYPE会議で、氏の進めている地元特産品の詰め合わせ”ほまじのわ”の内容と製造・出荷スケジュールの紹介があり、REPA関係者がこれの発注に協力することとした。

事務局会議では、佐藤茂夫氏の宮代地区PJ提案内容の紹介、総会・講演会の計画を審議した。